

平成 21 年 6 月 25 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007～2008

課題番号：19820048

研究課題名（和文） ドゥルーズ『差異と反復』の現代的＜解凍＞の試み

研究課題名（英文） On “Difference and Repetition” —its contemporary interpretation

研究代表者

原 一樹 (HARA KAZUKI)

神戸夙川学院大学・観光文化学部・講師

研究者番号：90454785

研究成果の概要：本研究は、申請者が持つ「哲学とは何か、何でありうるか」という問いに対して一定の解答を与えたと見なせるジル・ドゥルーズの前期主要著作『差異と反復』の内在的解明を果たすことを目的として遂行された。数多の諸科学・藝術の言説を独特の仕方ewith活用しつつ構成されるこの著作の根本に位置する「強度」概念について、特に心理学理論（ピアジェ理論等）や哲学史的系譜（カント、コーヘン、マイモン等）を参照しつつ、その＜現代的解凍＞を試みたものである。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 1,100,000 | 0 | 1,100,000 |
| 2008年度 | 1,170,000 | 351,000 | 1,521,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,270,000 | 351,000 | 2,621,000 |

研究分野：西洋哲学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：ドゥルーズ、差異、強度、内包量

1. 研究開始当初の背景

- (1) ドゥルーズ没後 10 年余を経て、申請者はドゥルーズ哲学の根本を為す『差異と反復』を、ドゥルーズが指示する参照先の諸理論へと遡行しつつ解読する地道な試みが必要だと考えていた。ドゥルーズが渉猟し活用する諸理論は極めて多

岐にわたるため、その作業には膨大な時間と労力がかかるが、ドゥルーズ研究の更なる進展にはその作業が必要不可欠だとの認識は現在も変わらない。

- (2) 上記の背景・動機に共鳴する先行研究と

しては Manuel Delanda 氏の“Intensive science & virtual philosophy” があり有益なものだが、申請者はこの著作が現代科学の諸理論とドゥルーズ哲学との接続を性急に果たそうとし過ぎている感触を持った故、よりドゥルーズ哲学に内在的な解明が必要だと考えていた。現在もこの認識は変わらない。

2. 研究の目的

- (1) 申請者は、以下の三つの「メタ・哲学的問題関心」を抱いている。それらは、i) 「哲学と自然・社会・人文科学・藝術との関係の問題」、ii) 「哲学が社会において果たしている、或いは果たすべき役割の問題」、iii) 「<哲学>の名の下に今後どのような思考形態が可能かという問題」、の 3 つであるが、本研究は i) に対しドゥルーズ哲学の研究・解明を通して一定の見通しを得ることを目指すものである。
- (2) その為に特に本研究は様々な諸科学・藝術を参照しつつ構築される前期ドゥルーズ哲学の主著『差異と反復』を対象とし、特にその核心を担う「強度」概念を、ドゥルーズが参照を指示する諸理論へと愚直に遡行することで解明しようと試みるものである。
- (3) 「強度」概念の解明には以下の 4 つの視点からの探究が必要である。
 - i) 「強度＝差異」の自己消去的存在様態の解明
 - ii) 「深さ」・「スパティウム」・「強度的空間」の内実の解明
 - iii) 超越論的原理としての「強度」、「エントロピーの局所的逆行」の解明
 - iv) 「強度に導かれる個体化」の議論の現代科学を踏まえた再構成の試み

本研究はこのうち、ii) の一部を遂行するものである。

- (4) 上記 ii) は、更に [A]: 哲学系理論 (ライプニッツ、カント、ヘーゲル、ベルクソン等) の解読と、[B]: 心理学系理論の解読 (パリアール、プラディーヌ、ピアジェ、リュイエ) の解読、という二つの作業に区分される。本研究は、[B] と [A] を同時並行的に進めるものである。

3. 研究の方法

上記の研究の目的を踏まえ、本研究が採用した方法は以下である。

- (1) 特に「深さ」の概念や、「強度」と「深さ」の関係性を解明する為に、“Pensée implicite et perception visuelle” (Jacques Paliard 著・1949)、及び “Traité de psychologie générale ” (Maurice Pradines, 1943) の精密な読解作業を行った。
 - (2) 特に「強度的空間」の内実理解を深化させる為に “Introduction à l'épistémologie génétique” (Jean Piaget, 1949) を中心に、ピアジェ理論の読解作業を行った。哲学史的系譜の読解と合わせ、更なる検討を進めつつある。
 - (3) ドゥルーズの「強度＝内包量」概念がどのような哲学史的立場づけを与えられるべきものかという角度からその内実を解明する為に、ライプニッツ、カント、ベルクソンらによる「強度＝内包量」概念の検討を進めている。
- ① 特にカントについては『純粹理性批判』

における「知覚の予料」の議論を巡る諸論者の見解を検討している。

② 更にドゥルーズの「強度＝内包量」概念がカント批判の文脈で捉えられうる点に鑑み、ドゥルーズが肯定的に評価する新カント派、ヘルマン・コーエンの議論へと遡行している。特に“La Théorie Kantienne de l'expérience”、“Le principe de la méthode infinitesimale et son histoire”を検討している。

③ 同様に、カント批判という文脈からドゥルーズの「強度量＝内包量」概念についての理解を深める為に、ドゥルーズが肯定的に評価する S.Maimon の著作、“Essai sur la philosophie transcendante”を検討している。

4. 研究成果

(1) ドゥルーズが「強度」概念を彫琢するにあたり採用した心理学者の諸言説へと遡行し、「強度」と「深さ」の概念の内実理解を深化させた。特に、「深さ」と「延長」との関係については J・パリアールの言説の精密な読解を踏まえ、パリアールの議論とドゥルーズの議論がどこまで歩みを共にし、どこで分岐するかを明らかにした。また「強度」と「質」との関係については M・プラディーヌの言説の精密な読解を行い、二つの概念が持つ幾つかの関係についての理解を深めた。これらの研究は、ドゥルーズによる強度概念の整合的理解を目指す試みの一環を為すものであり、論文「＜強度＞概念再考—その内在的理解の深化に向けて」(『ドゥルーズ/ガタリの現在』所収)にまとめた。この論文は、ドゥルーズが参照する諸論者の言説へと直接遡行し、ドゥルーズが彫琢した概念がいかに

構成されているかについて検討するものであり、国内はもとより、国外の研究状況を見ても先行者の存在しない研究だと言える。

(2) ドゥルーズが「強度的空間」について参照を指示するピアジェ理論についての準備的研究を遂行した。主な対象は“Introduction à l'épistémologie génétique” (Jean Piaget, 1949) と、『幼児の空間表象』であるが、ピアジェがドゥルーズ同様に「外延量・外延的空間」の背後に「内包量・強度的空間」が存在することを示そうとしていた点が確認された。ドゥルーズによる「強度」概念の内実を、ピアジェ理論を経由することで更に引き伸ばすことが目指されるべき方向であり、その際にピアジェの言う「下位論理的操作」が重要な概念となることが予想されるが、ドゥルーズによるカント批判の文脈を踏まえた上で具体的な引き伸ばし作業を行う必要があると判断する為、一旦この方向での探究は保留しているところである。ドゥルーズによるカント批判の内実理解の引き伸ばし作業の中で、ピアジェ理論を利用することになると予想している。

(3) ドゥルーズの『差異と反復』全体がカント哲学への透徹した理解に基づくその批判的乗り越えの書という側面を持つ点や、特にドゥルーズによるカント批判の核心に「強度」・「内包量」概念が位置する点から、ドゥルーズがいかなる意味でカント哲学を超克しようと試みているのか再検討を進めている。具体的にはカントの「知覚の予料」の議論への先駆的批判者でありドゥルーズ哲学への影響も大きいと見られるヘルマン・コーエンやサロモン・マイモンの言説の読解を進めている。この方向では Juliette Simont の先行研究があるが、特にコーエンによる「微

分法の歴史」についての著作や、自然科学や微分法における「無限小」概念の位置づけの歴史の変遷をも踏まえた上で、より広範な哲学史・自然科学史への目配りのもと、ドゥルーズの「強度」・「内包量」概念の内実理解を引き伸ばし深化させるべく研究を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計 1 件)

『ドゥルーズ・ガタリの現在』(共著・所収論文「強度概念再考—その内在的理解の深化に向けて」執筆)(小泉義之・鈴木泉・檜垣立哉編、平凡社、2008年、p.103-p.122)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原 一樹 (HARA KAZUKI)

神戸夙川学院大学・観光文化学部・講師

研究者番号：90454785

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者